

《日商簿記2級》 —工業簿記—

7. 労務費計算①

～労務費の分類と原価計算期間の要支払額について～



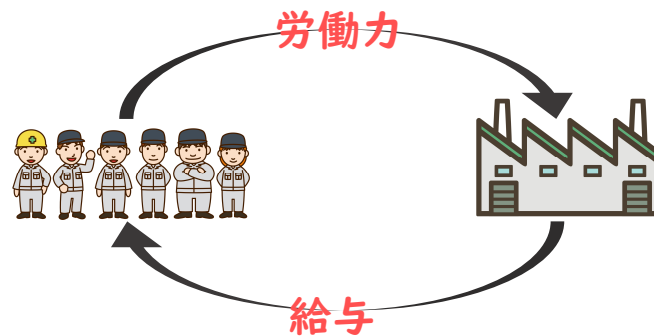
ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



労務費の分類と原価計算期間の要支払額

～労務費の分類～

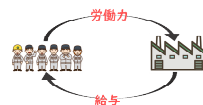
<何が直接労務費・間接労務費となるのか>



ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>



労務費の分類と原価計算期間の要支払額



○用語○
給与…労働の対価として支払われるお金
工員…製品の製造に携わる従業員

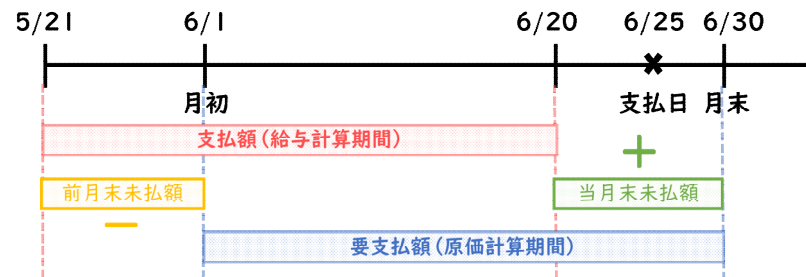
・労務費とは、工場で働く人の（ ）を消費した時に発生する原価のことである。

《労務費の分類》

分類	内容
	製品製造(加工作業)に直接携わる工員への給与(直接作業分) (切削・組立など)
	製品製造(加工作業)に直接携わる工員への給与(間接作業分) (製品製造に直接携わらない作業)
	製品製造はせず、補助的な作業に携わる工員への給与 (修繕・運搬・清掃など)
	事務員や管理監督者などへの給与 ※製品製造に関わっていないので工員とは言わない
	パートやアルバイトなどへの給与
	賞与(ボーナス)や(作業には関係ない)通勤手当、住宅手当など
	退職金の支払いに備えて設定される引当金の繰入額
	社会保険料の会社負担分 ※日商簿記3級「第26回:立替金と預り金」で詳しく解説しています!!

労務費の分類と原価計算期間の要支払額

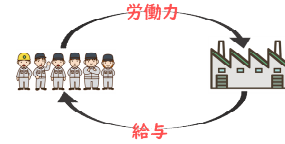
～原価計算期間の要支払額について～ <給与計算期間と原価計算期間の違いとは?>



ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiirroha.com>



労務費の分類と原価計算期間の要支払額



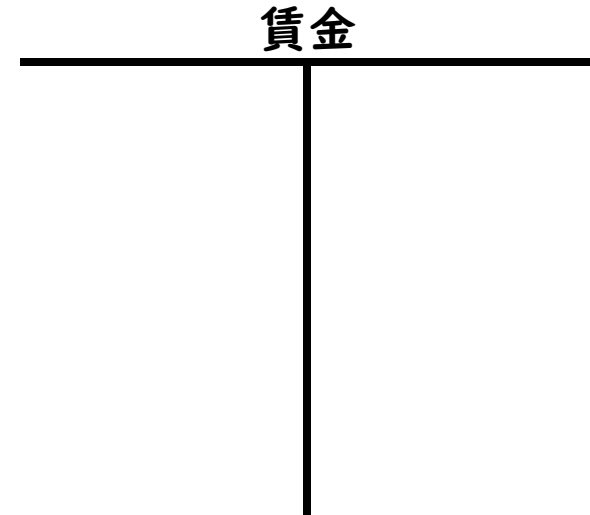
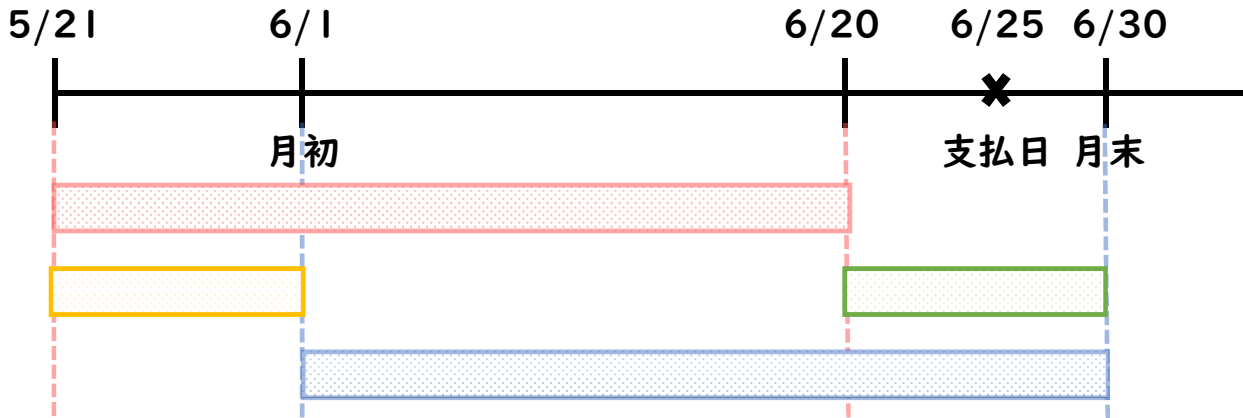
・賃金は、基本賃金に加給金・諸手当を加えた()から源泉所得税や

社会保険料の従業員負担分などを控除して支払いが行われる。(給与)支給総額 = 基本賃金 + 加給金 + 諸手当

なお、これらの控除額は()勘定で処理を行う。

・また、賃金支払額の計算は、「毎月20日締め25日払い」のような()をもとに計算される。ただし、製造原価の計算を行うための()は、「当月の1日から月末」をもとに計算する必要があるため、これらにはズレが生じる場合がある。

・そのため、給与計算期間の支給総額に()を加減して、原価計算期間における()を求める必要がある。



○用語○

加給金…基本賃金に加えて支給される手当のうち、作業に関するもの(時間外手当など)

労務費の分類と原価計算期間の要支払額

—問題解説—

～労務費(当月消費額)の計算～

ミッチ「ボキいろは」 <https://bokiiroha.com>

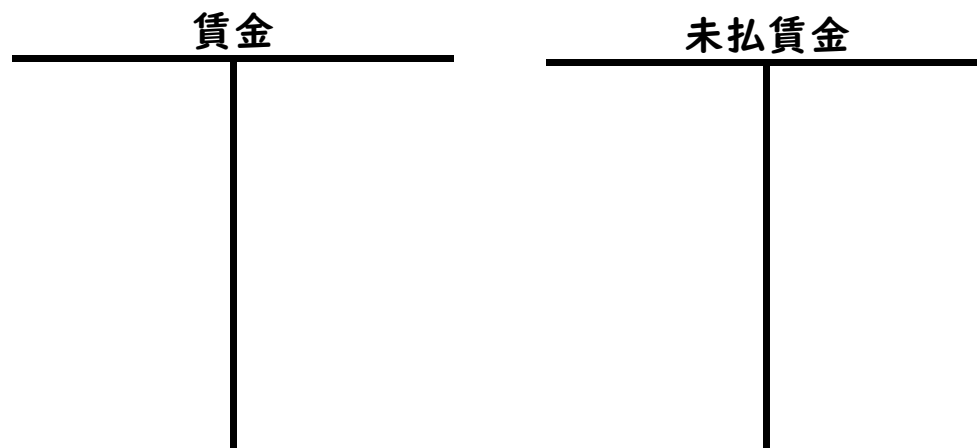
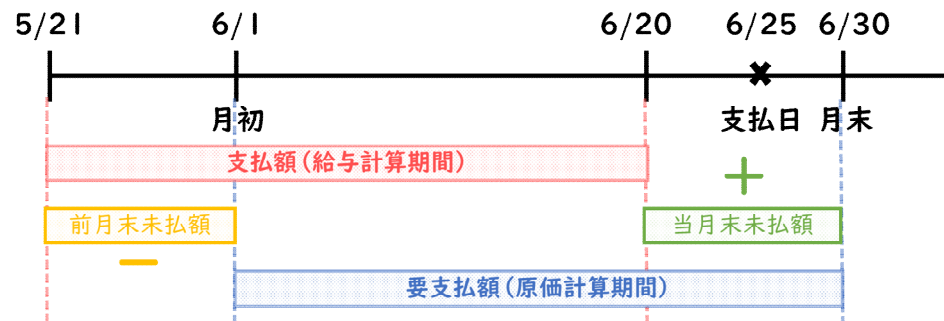
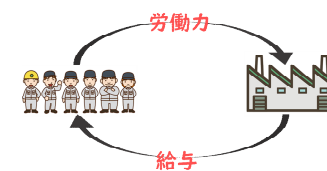
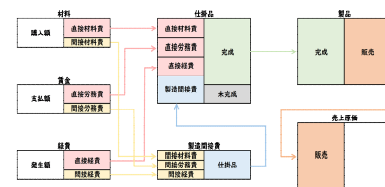


労務費の分類と原価計算期間の要支払額

仕訳問題

1. 6月 1日 賃金の前月末未払額は600円だった。
2. 6月25日 当月の賃金2,000円から預り金200円を控除して、残額は現金で支払った。
3. 6月30日 当月の賃金消費額は、直接労務費1,600円、間接労務費500円だった。
4. 6月30日 当月の賃金未払額は700円である。

1. 6/1
2. 6/25
3. 6/30
4. 6/30



《まとめ》

貸金	
支払額 5/21~6/20	前月末未払額 5/21~5/31
当月末未払額 6/21~6/30	要支払額 (当月消費額) 6/1~6/30

- ()とは、製品製造に直接携わる工員をいう
- ()とは、(製品製造を直接行わず)補助的な作業に携わる工員をいう
- 直接工の()が直接労務費となり、それ以外はすべて間接労務費となる
- 労務費の当月消費額の計算は、給与計算期間の支給総額に未払賃金を加減した原価計算期間の()で行われる

原価計算期間の要支払額 = 給与計算期間の支給総額 - 前月末未払額 + 当月末未払額



※この回の動画が「いいな♪」「役に立ったな♪」と思ったら、ぜひ、高評価をお願いします！

第7回の内容お疲れさまでした♪

